

当健保組合の第3期データヘルス計画

「データヘルス計画」とは、心身の健康状態に左右されずに快適に生活できる“健康寿命”を延ばすため、全ての保険者に義務付けられたもの。この計画は、健保組合が保有する医療や健康情報等「データ」を活用し、分析や科学的アプローチから効果的・効率的に保健事業を実施するもので、PDCA サイクルによる6か年単位の中長期活動計画です。

令和6年度からは11年度までの第3期にあたり、より効率的な展開を図るため、加入者一人ひとり、さらには働く場である事業所側の健康意識を高めていくことが重要となります。

今期目指すところ

- より身近な、毎日の生活ベースで加入者個々が「自身の健康」を考えて行動する。
- 働き手確保につながる「働く人の健康を守る」ために事業主の協力と一体化できる事業展開を図る。

JAに関連するグループの事業所が複数加入する総合健保組合である当組合では、その加入者の大半の被保険者は様々な業種に就いています。職種や働き方によって生活リズムも異なり、「健康」についての課題の要因も1つではありません。

健康スコアリングレポートから見てくる当組合の特徴

「高血圧・糖尿病のリスク保有者の割合が高い」

リスク	良好	中央値と同程度	不良
肥満リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
血圧リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
肝機能リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
脂質リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
血糖リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞

「適切な運動・睡眠習慣を有する者の割合が低い」

リスク	良好	中央値と同程度	不良
喫煙習慣リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
運動習慣リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
食事習慣リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
飲酒習慣リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞
睡眠習慣リスク	😊	😊😊😊😊😊	😞

リスク資料：2021年度の特健診受診者データの集計に基づく2022年度版（2021年度実績分）健康スコアリングレポートによる。

顔マークの見方



全健保組合平均を100とした際の各組合の相対値を高い順に5等分し、「良好（😊）」から「不良（😞）」の5段階で表記しています。

- 全国平均と同じ傾向で、高血圧・糖尿病等の生活習慣病が目立つ。
- 特定健診の結果などからも健康面のリスクを抱える人が多い。

今期の計画

連携する特定健康診査等の実施計画では特定健診受診率85%以上、特定保健指導実施率30%以上の維持を目指します。また、生活習慣の改善を身近なところで実践的に始める特定保健指導は病気の発症を低減させる重症化予防事業にもつなげた支援体制とします。

プライベートでも働く場でも、毎日の暮らしの中で、受診のために予約や休みを取る、保健事業に参加するなど「自身の健康」を考えた行動に寄せていくことが大切です。個々の小さな積み重ねによって、**豊かに生きる加入者を増やす**ことにつながる「いいこといっぱい」の計画です。

そのため、事業主の協力体制のもと、一丸となった働きかけや環境整備を行い、加入者へ健康課題をわかりやすく伝え、健康づくりを支援してまいります。